CITY OF DESIGN KOBE 2016

Member of the UNESCO Creative Cities Network since 2008

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

City of Design KOBE

Member of the UNESCO Creative Cities Network since 2008

神戸市はユネスコに認定されたデザイン都市です

デザインで作るまちの魅力

デザイン都市・神戸 2016年度の取り組み

シビックプライド スローガン「BE KOBE」

竹中大工道具館 新館 Photo:古川泰造

ちびっこうべ Photo:Jotaro Sasashita

東遊園地

「デザイン都市・神戸」

CITY OF DESIGN KOBE

1868年の開港以降、「ひと」「情報」「もの」を広く海外から受け入れてきた神戸。特色ある神戸文化は、これらが融合することで生まれてきました。山と海に囲まれた自然に富んだ「まちなみ」、外来文化を積極的に受け入れる開放的で自由な気風・風土が作り出した「くらしの文化」、ケミカルシューズ・洋菓子・真珠などに代表される「ものづくりの技術」など、都市として誇れる素晴らしい資源や魅力が生まれました。

1995年の「阪神・淡路大震災」からの復興の過程でも、人の絆や助け合いの素晴らしさに触れることができました。脈々と受け継がれてきた豊かな感性や創造力は、まさに神戸のDNA。それを生かすデザインの力が、人への思いやりと未来への力となって神戸の復興を支えたのです。

デザインには人々をひきつけ、心を動かす力があります。たとえば、地域の資源を生かした観光振興や、魅力ある景観づくり、産業の振興にデザインの力は不可欠です。また、毎日の暮らしの中で、環境・防災・防犯・福祉・教育といった私たちの身近な事柄に潜む課題を見えやすくすること、伝わりやすくすること、さらにはこれらの思いをめぐらし行動を起こさせること、これもデザインの大切な役割です。ちょっと便利に、少しやさしく、もっと楽しく、ずっと幸せに。

人はみな、素晴らしい創造力を持っています。その創造力は、文化・芸術などによって育まれます。創造力に基づく一人ひとりの行動は、自らの心豊かなくらしと社会の活性化をもたらします。わたしたちは、こうした過程を大切にする都市の空気や、価値観を市内外に広く共有していきたいと考えています。

2008年10月16日、神戸市は、これまでの取り組みとそのビジョンが認められ、ユネスコ創造都市ネットワークの「デザイン都市」に認定されました。市民自らが幸せを実感でき、都市としても成長し続ける。そんな「デザイン都市」を目指しています。

市民が動かすまちづくり

「デザイン都市・神戸」創造会議

Building a community with the citizens

City of Design KOBE Creative Council

「デザイン都市・神戸」創造会議は、市の施策や事業、今後の方針等について、各分野で先進的な活動を行う有識者や専門家がデザインの視点で横断的・具体的に意見や提案を行う会議です。

7月には、委員だけでなく、クリエイターや市民、事業者、学生などを広く募り、「神戸クリエイター会議」を開催。100人を超える人たちが参加し、「映像による情報発信」「自転車のまち」「空間利用」「創造的人材育成」「デザイン都市と瀬戸内」「農と福祉」「ワカモノの都市」の7つのテーマでプロジェクトが生まれました。

たとえば、歩行者と自転車と自動車が共存できるまちづくりを考えるプロジェクトや、空き空間の所有者と利用者をつなぐプロジェクトなど、市民がまちを魅力的にする動きが次々に生まれています。

東遊園地

三宮プラッツ

KOBEパークレット

葺合南54号線のリデザイン

三宮周辺地区の活性化

三宮エリアに、新たなにぎわいを！

Vitalization of Sannomiya area

三宮周辺エリアでは、さまざまなにぎわい創出の取り組みが行われました。

〈東遊園地〉6月から広場のほぼ全面約2,500㎡を芝生化する実験を行い、芝生広場の開放に合わせて、2015年に短期の社会実験として始まった「アーバンピクニック」を2016年は約140日間実施。カフェ「Park Kitchen」、青空図書館「アウトドアライブラリー」、ヨガ教室や工作体験などの公募プログラムのほか、芝生コンサートや、映画上映会など、90回以上の多彩なプログラムを実施しました。

〈三宮プラッツ〉「三宮プラッツ」は京町筋交差点にある半地下の広場の愛称です。ジャズなどの音楽ライブやトークイベント、日本酒バーなどを開催しました。また、テーブルやベンチ、Free Wi-Fiなどを備え、憩える空間をつくっています。

〈KOBEパークレット〉車道の停車帯にウッドデッキを敷き、ベンチやテーブルを配置した「KOBEパークレット」を3か所設置する社会実験を実施しました。車道の一部を利用したパークレット設置は、全国初の取り組みとして注目を浴びるとともに、都心の新たな憩いとにぎわいの空間として、利用者に大変好評でした。

〈葺合南54号線のリデザイン〉葺合南54号線は、フラワーロードの東側、三宮駅とウォーターフロントエリアを南北に結ぶ道路です。歩行者が楽しみながらまちを歩くことができるよう、歩道を拡幅し、ベンチなどを整備しました。人を中心とした憩いとにぎわいのある道路空間を推進していきます。

【小・中】最優秀

【一般】最優秀

第1回マンホールデザインコンテスト

足元に神戸らしいデザインを！

1st Manhole Cover Design Contest

市民が街中で目にする下水道マンホールを市民自らの手でデザインしてもらう企画、「第1回マンホールデザインコンテスト」を初めて実施しました。テーマは「みなとまちKOBE」。総数159作品の応募があり、下水道イベントでの来場者の投票や審査員等による選考を経て、「小中学生の部」「一般の部（高校生以上）」で、それぞれ最優秀賞（1作品）・優秀賞（2作品）を決定しました。

2017年3月に東灘処理場で開催された「第15回アーモンド並木と春の音楽会」で表彰式を行い、最優秀賞に選ばれた2作品のデザインを元に、実際のマンホールを三宮・元町付近に設置しました。

神戸開港150年

港とともに、さらに発展していく神戸へ。

150th anniversary of the opening of Kobe Port

2017年1月1日に開港150年を迎えたことを記念して、神戸港の歴史を振り返るとともに、さらなる発展へのスタートを切るため、数々のイベントを実施しています。

また、メリケンパークでは、訪れた方に快適に過ごしていただけるよう、芝生広場や歩道の改修を進めています。このリニューアルに合わせて、神戸市民であることを誇りに思う気持ちのシンボル「BE KOBE」をかたどったモニュメントを設置しました。開港150年を迎え、ウォーターフロントは「デザイン都市・神戸」のリーディングエリアとしてさらにその魅力に磨きをかけていきます。

まちの案内サインの再整備

まちの案内サインにデザインの視点を。

Redevelopment of the city's navigation signs

「デザイン都市・神戸」にふさわしい案内サインをつくるためのルールをまとめた「案内サイン共通仕様書」が2016年5月に完成しました。
まずは11月に矢羽型誘導サインのプロトタイプを北野坂南端交差点に設置し、その課題を踏まえ、修正・検討を重ねました。今後、北野やメリケンパークなど都心を中心に整備をすすめていきます。

078kobe.jp 2017

078プレイベント

078 Pre event

「若者に選ばれるまち」をめざして、複合的な分野横断イベント「078」を2017年5月開催予定。まちを挙げて、様々な若者を受け入れ、若者が活躍できる環境を支援していけるよう、「インディーズ文化」「スタートアップ文化」といった若者に訴求する文化・風土をまちに根づかせていきます。2016年度は「078」の機運を高め、広報するために音楽イベントや映画上映会、アイデアソンなど様々なプレイベントを開催しました。

EAT LOCAL KOBE　ファーマーズマーケット

都心と農村をつなぐマーケットは、神戸の週末の顔に。

EAT LOCAL KOBE　FARMERS MARKET

地産地消のライフスタイルをすすめる「EAT LOCAL KOBE」では、2015年度に引き続き三宮の東遊園地で「ファーマーズマーケット」を開催しました。
今年度は毎週土曜日（年40回）の定期開催に。市内の若手農家や地産地消に興味のある飲食店と消費者をダイレクトにつなぐ場として定着、東遊園地の週末の顔になりました。また11月5日に開催した「神戸の食」を考えるイベント・第2回食都神戸DAY「FARM TO FORK」では、芝生化したグラウンドも活用し、約3,000人の来場者でにぎわいました。

六甲学院中学校・高等学校 本館
Photo:Nacasa&Partners

神戸市都市デザイン賞

魅力ある景観やまちなみをまもり、つくり、そだてる。

Kobe City Urban Design Award

魅力ある景観やまちなみをまもり、つくり、そだてる。その取り組みの1つとして開催している、「神戸市都市デザイン賞」。
神戸らしい景観やまちなみを形成している建築物を表彰する「まちのデザイン部門」、環境に配慮された優れた取り組みを行っている建築物などを表彰する「地球にやさしいCASBEE建築部門」、神戸の魅力を伝える写真を表彰する「まちの魅力発信部門」の3つの部門があります。
3回目を迎えた本年度、まちのデザイン部門建築文化賞を「竹中大工道具館 新館」と「六甲学院中学校・高等学校 本館」が受賞しました。

市庁舎空間の見直し

神戸市役所の新たな顔となる空間。

Reconsideration of the City Hall space

1号館1階西側にある待合スペースと喫茶エリアを対象に、改装設計プロポーザルの公募を行いました。注目度は高く、全国から83点の提案を頂きました。
書類審査・プレゼンテーション審査を実施し、(株)中村竜治建築設計事務所を選定しました。サイズや形状の異なる木のベンチが市役所のロビーにランダムに並んだ様は、まるで水面にゆらゆらと漂う木の葉のよう。2017年度には「デザイン都市・神戸」の顔として生まれ変わる予定です。

歴史的建築物の保存活用

古き良き建築物を未来へ。

Preservation and utilization of historical structures

地域の文化を伝える古民家、「神戸らしさ」を象徴する近代建築物など、神戸には歴史的建築物が数多く存在します。これらを後世に残していくために、神戸市ではその保全や活用に力をいれています。たとえば、園内に重要文化財建築や日本庭園を有する相楽園では、より多くの市民が訪れ親しめる場所になれるよう、現在、その活用方法について検討調査を行っています。また、神戸市都市景観条例に基づき「景観形成重要建築物等」の指定を継続して行っており、2016年度は新たに異人館「ラインの館」として知られる旧ドレウェル邸(中央区北野町)を指定しました。現在21棟の建築物等を指定しており、旧神戸生糸検査所を改築して活用しているデザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)もその一つです。

新神戸駅連絡通路リニューアル

神戸の玄関を観光の視点でデザイン。

Renewal of Shin-Kobe Station Passageway

新神戸を「デザイン都市・神戸」の玄関口にふさわしいイメージに一新しようと、地下鉄新神戸駅と新幹線とを結ぶ連絡通路約130mをリニューアルしました。デザインと監修は、神戸芸術工科大学環境建築デザイン学科の長濱研究室が担当。ポートタワーをモチーフにした光の柱や大型ビジョン、さらには神戸らしい雰囲気のある内装や照明で、旧居留地や異人館などの観光地を3つのエリアに分けて紹介。神戸を訪れる皆さまをおもてなしの心でお迎えしています。

KOBE パンのまち散歩

おいしいパンで神戸をめぐる1か月!

KOBE Bread Town Walk

開港以来、諸外国との交易の場として栄えてきたみなとまち・神戸。異国の文化に彩られたこのまちで、人々に親しまれてきたのがパンでした。
そんな神戸でパン屋さんをめぐり、お気に入りのパンを見つけ、パンをもっと好きになってもらうイベント「KOBEパンのまち散歩」を11月の1か月間開催。
お得な特典が受けられるMAPの配布やさまざまなイベントを通じ、パンのまち・神戸で、おいしい出会いを演出しました。

U30 CITY KOBE

若者に選ばれるまち・神戸へ。

To Kobe, a city popular amongst young people.

次代を担う若い世代に神戸への愛着を持ってもらえるように、神戸を拠点に活躍するさまざまな分野の若者にスポットを当てたドキュメンタリーフィルム「U30 CITY KOBE」を制作、公開しています。出演する若者たちは活躍するフィールドや職業も様々。ただ共通するのは、「夢を追い続けている若者たち」ということのみ。彼らがどんな想いを胸に抱き、現在進行形で、どんな夢に向かっているのか。そんな彼らのリアルな姿に、限りなく迫りました。テーマ曲を作曲したのは、神戸市在住の音楽プロデューサーtofubeats氏。“神戸で頑張る若者への応援歌”という想いも込められたオリジナルトラックも併せてお楽しみいただけます。

LIVE LOVE KOBE

神戸に暮らす、人生を満たす。

Live in Kobe, fill up your life.

「神戸暮らし」のトライアルサービスとして、神戸市が主催した『LIVE LOVE KOBE』(2016年8月～11月)。市内で試住体験をしていただきながら、神戸をこよなく愛する案内人とともに、神戸での暮らしを満喫できる「神戸人体験ツアー」を提供することで、神戸への移住を促進しました。2017年2月には、「神戸スイーツ×しごと」というテーマで特別企画を実施しました。

コミュニティトラベルガイド「農す神戸」

北区の魅力を個性豊かな「人」を通じて紹介！

Community travel guide "NORTH KOBE"

港町のイメージが強い神戸ですが、六甲山の北側には自然とふれあう魅力的な里山の暮らしがあります。日常に「農」を感じながら、都市部へのアクセスも良い神戸市北区。
「農す神戸－NORTH KOBE」は、そのような「ちょうどいい」暮らしを、北区に住まう13人のライフスタイルを通じて提案する定住・移住促進ガイドブックです。

ウェアラブルデバイスって何だ？フェスティバル

ウェアラブルデバイスのことを、もっとみんなに。

Spreading the word about wearable devices.

神戸市は、腕や頭部など身体に装着して利用する端末「ウェアラブルデバイス」を使用した、新たな市民サービス・ビジネスの創出を目指していますが、まだまだ認知度が低いのが課題です。
そこで、まずはどんなに便利なものなのか、それを使うことで何ができるのかを、広く知ってもらうために「ウェアラブルデバイスって何だ？フェスティバル」を開催しました。トークセッションや体験コーナーを通じ、ウェアラブルデバイスについて触れる機会をつくりました。

みんな・だ！ミートアップ2ndシーズン「みんなだGO」

次世代を担う灘区民たちの交流。

Interactions amongst Nada Ward residents, supporters of the coming generation.

「みんなだGO」は、灘区に在住・在勤・在学の人なら、誰でも参加できる交流＆企画提案ワークショップ。昨年度に実施した「みんな・だ！ミートアップ第1弾」で完成した「65(ロッコー)の提案」を前に進める企画です。ほぼ初対面の人たちが6つのチームに分かれ1ヵ月以上にわたり企画を検討しました。最終的には、行政・事業者・NPO・地域団体などにプレゼンを実施。マッチングや事業化を目指して熱い時間を過ごしました。

創造都市指標

市民の創造力を可視化する試み。

Creative City Index

神戸市は、市民の持つ創造力を活かし、社会が抱える様々な社会課題の解決に挑むプロジェクト「issue+design」に参画しています。「市民の持つ創造力」とは何か？ それを高めるためにどんな工夫が必要か？ という疑問から、都市の創造性を可視化するための指標「創造都市 INDEX」を開発しました。

【攻】の５指標

新しいものに触れ挑戦する。未来に向けて前向きな行動姿勢、価値観

- チャレンジ
- 異文化交流
- 独立心
- 芸術・文化
- 遊び心

【守】の５指標

古いもの、異なるものを尊重し、自分、地域、社会に寄り添う行動姿勢、価値観

- 受容性
- 次世代育成
- 社会貢献
- 伝統継承
- 地域愛

デザインのチカラ展

デザインの価値を広く企業に！

Power of Design Exhibition

「国際フロンティア産業メッセ」で毎年開催している「デザインのチカラ展」。本年度は「デザイン都市・神戸」創造会議委員・服部 滋樹氏（graf代表・クリエイティブディレクター）が選んだ優れたデザイン製品や企業の取り組みを、6つのテーマで紹介しました。専門アドバイザーによる個別相談や啓発セミナーも開催。
ものづくりにおけるデザイン活用の意義や効果を広く伝えました。
（協力：一般財団法人日本デザイン振興会）

第12回兵庫モダンシニアファッションショー

シニアがいきいきと毎日を過ごせる神戸へ。

12th Hyogo Modern Senior Citizens Fashion Show

シニアや体に障がいのある方が主役となる兵庫モダンシニアファッションショーが、兵庫区で開催されました。神戸芸術工科大学の協力により製作した、体に障がいがあっても着脱しやすい衣装や、思い出のつまった服や着物のリメイクなど思い思いの衣装でステージを歩き、年を重ねても、障がいがあってもおしゃれを楽しむ姿を発信しました。

神戸のものづくりを支える「デザイン相談」

中小企業のデザイン活用を後押し

"Design Consultations," supporter of Kobe manufacturing

毎年9月の「国際フロンティア産業メッセ」で行っている「KOBEデザイン相談」。2016年6月の「神戸ものづくり中小企業展示商談会」でもミニセミナーを開催、ブースを設置しました。「こんな製品を作ってるんだけどどう思う？」「デザイナーとの出会い方は？」経験豊富な専門アドバイザーがさまざまな質問に丁寧に答えました。
また、「神戸リエゾン・ラボ」にあるNIROものづくり試作開発支援センターでは、神戸芸術工科大学と連携し、中小企業に向けて随時助言・提案を行う「工業デザイン相談」を実施しています。

KOBE工業デザイン塾

「アイデア」を製品化する手法をレクチャー

Lectures on how to commercialize "ideas"

プロダクトデザインの初歩的な制作プロセスを、少人数制で学ぶ演習講座を、2016年11月、神戸芸術工科大学の協力で開催。キッチンタイマーをテーマに、中小製造業の製品設計者や企画担当者14名が参加しました。

ものデザインコラボLAB KOBE2016

本気で商品開発に取り組む企業を応援。

Product Design Collaboration LAB KOBE 2016

新商品開発、自社商品の見直しに神戸市の中小企業等が本気で取り組む、商品開発実践プログラムです。昨年度に続き、講師としてお迎えした金谷勉氏（CEMENT PRODUCE DESIGN）から、商品開発にあたって徹底した自社分析、ターゲティング、コンセプト固めなどの重要性を学びながら、実際の商品企画としてまとめました。
また、昨年度より商品開発に取り組んだ第1期参加企業のうち、3社が開発商品を展示会に出展しました。

第43回神戸ファッションコンテスト2016

国際的に活躍するデザイナーを輩出。

43rd KOBE Fashion Contest 2016

「神戸ファッションコンテスト」は1974年、「神戸から新しいファッションの提案」をテーマにはじまった日本を代表するファッションコンテストです。
これまでに100人もの留学生を海外のファッション系大学・専門学校へと送り出しています。
2016年度も5人が特選を受賞。海外校への留学が決まり、その作品はファッション美術館に展示されました。

CROSS

企業とクリエイターの交差点

Crossing of companies and creators

神戸市内の中小企業に、デザインを活用する意義や効果を知ってもらう場として、また企業とクリエイター、デザイナーたちがつながるきっかけとして、本年度からはじまった交流イベントが「CROSS」です。
若手を中心に、様々に活躍するクリエイターやデザイナー、デザイン活用に取り組む企業等をゲストに招いてのトークセッション、デザイン手法を学ぶワークショップなどを月1回程度のペースで、今後も開催していきます。

神戸タータン

神戸らしさを表現するテキスタイルを。

Kobe Tartan

神戸の海をイメージした「青」をベースに、神戸のポートタワーや神戸大橋、そして街の情熱をイメージした「赤」、神戸の山をイメージした「緑」、そして神戸に多く見られる白亜の建物の「白」、そして、「グレー」。神戸を感じる5色を組み合わせたタータンチェック柄が、神戸港開港150年を記念に企画されました。ネクタイやポケットチーフをはじめ、今後さまざまなアイテムに活用される予定。新しいトラディショナルなデザインが、神戸のまちを元気づけます。

神戸別品博覧会

神戸の企業と有名デザイナーがコラボ！

Collaboration between Kobe companies and famous designers

神戸を愛する地元企業が円陣を組み、神戸の街と経済の活性化のために、新進気鋭のアーティストやクリエイターとものづくりのコラボレーション！
「別品＝普通とは違う、特別な品」を生み出すプロジェクトを立ち上げました。
神戸にある、良いもの・美味しいもの・おしゃれなものがさらに魅力を増して、新たなブランドや商品が続々と生まれています。

Photo:Shunsuke Ito

デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）

DESIGN AND CREATIVE CENTER KOBE (KIITO)

デザイン・クリエイティブセンター神戸は、「デザイン都市・神戸」の創造と交流の拠点として、2012年8月にオープンしました。生糸（絹糸）の西日本の輸出拠点だった神戸生糸検査所をリノベーションしたこの施設は「KIITO（キイト）」の愛称で親しまれています。市民の創造性を育むイベント、ワークショップ、さまざまなプロジェクトを通じ、クリエイティブな人材の交流と集積が行われています。施設内には、創造的活動のためのオフィス、約1,000㎡のホール、貸会議室、カフェなどがあります。

＋クリエイティブゼミ（KIITO）

＋CREATIVE SEMINAR (KIITO)

社会課題を「＋クリエイティブ」なアプローチにより解決しようとする、市民参加型ゼミ形式のプログラム。グループに分かれてのディスカッションを通じ、解決への方策を導き出すプロセスを学びます。社会人、学生など立場や意見の違うさまざまな人たちが参加。2016年度は、「市街地西部地区の豊穣化」「道路の未来を考える（葺合南54号線）」「ちびっこうべのまちを考える」などに取り組み、終了後も事業化に向けたサポートを継続しています。

ワークショップ（KIITO）

WORKSHOP (KIITO)

さまざまな分野のクリエイターやプロを講師に迎えたワークショップを通して、新たな創造性を育む機会を提供します。
2016年度は、「酒器と日本酒」「大人の洋裁教室」「男・本気のパン教室」などを実施。また、「ちびっこうべ」の開催に合わせて、夢のまちづくりや子ども向けの職業ワークショップなど、多彩なクリエイターの協力のもと多くのプログラムを実施しました。

LIFE IS CREATIVE展@東京

ものをつくる人生に、リタイアなんてない。

LIFE IS CREATIVE EXHIBITION @ TOKYO

２０１５年１０月にKIITOで開催した「LIFE IS CREATIVE展」の東京巡回展を、2017年2月にアーツ千代田 3331で開催しました。この企画展は、高齢社会におけるクリエイティブな活動、提案を「神戸モデル」として広めるための展覧会です。「男・本気のパン教室」「大人の洋裁教室」など神戸で生まれたアクションプランの実践に加え、ブラッシュアップした6つの取り組みをテーマ別に展示。関連イベントとして「オープニングトーク＆レセプションパーティー」、トークセッション「高齢社会における、人生のつくり方。」、「高齢化社会に向けてのデザインアプローチ」レビュー＆ジュリア・カセム氏 トークセッション、「Workshop for ‘GEAR CHANGE’ ～高齢社会に多様な生き方のオプションを提示する～」、「ライフ イズ クリエイティブ カフェ」を開催しました。

Photo:Shinko Tsujimoto

Photo:Shinko Tsujimoto

Photo:Shinko Tsujimoto

Photo:Shinko Tsujimoto

ちびっこうべ（KIITO）

CHIBIKKOBE (KIITO)

「ちびっこうべ」は、子どもたちとクリエイターが一緒に夢のまちをつくる体験型プログラム。2012年以降、2年に1度開催するKIITOのメインイベントは、本年度第3回目を迎えました。子どもたちはシェフ、建築家、デザイナーから、なりたい職業を1つ選び、プロから学びながら約3ヶ月かけて夢のお店をつくる「ユメミセ」ワークショップをはじめとした夢のまちをつくる様々なプログラムに参加。まちの運営にも携わることで、創造性や自主性を育みました。

レクチャー&トーク（KIITO）

LECTURE&TALK (KIITO)

多方面で活躍するクリエイターを講師に迎えるプログラム。2016年度は、東方悠平氏・赤井あずみ氏「まちに介入するアート」、鳴海邦碩氏・福田忠昭氏「都心まちづくりの潮流」、蘆田裕史氏・水野大二郎氏「言葉とファッション」、馬場正尊氏「エリアリノベーション」などのテーマで開催。レクチャー（講義）やトークイベント形式で創造的な活動の事例や手法を紹介しました。

Photo:Shunsuke Kano

アーティスト・イン・レジデンス（KIITO）

ARTIST IN RESIDENSE (KIITO)

まちのリサーチや人々との交流に重点を置く作家を招聘し、KIITOを拠点に滞在制作を行う「KIITOアーティスト・イン・レジデンス」では、写真家の長島有里枝氏を招聘。女性の創造性や、女性の持つ技術に光をあてた作品を、神戸の女性たちと共に制作しました。彼女たちから、捨てられない古着への思いを聞き、提供された古着で、長島氏がパートナーの母親と共にタープを制作。成果発表展では、タープや制作過程で撮影した写真作品を発表しました。

NPO学生交流拠点「神戸ソーシャルキャンパス」

学生のチカラが社会課題を解決する。

NPO Students Interaction Center "Kobe Social Campus"

外国人支援や認知症予防等といった社会課題に対応する主な担い手であるＮＰＯ。そんなNPOと学生をマッチングし、市内での就職や起業を促進することを主な目的とした交流拠点である「神戸ソーシャルキャンパス」がオープンしました。
同様の施設は他にはなく、全国初の取り組みとなります。神戸市は、学生のＮＰＯ活動やソーシャルビジネスへの参画・起業を応援しています。

神戸市クリエイティブディレクター

行政サービスや事業をデザインする。

Kobe City Creative Director

市のサービスや事業やが直面しているさまざまな課題を、「＋design」の視点で解決するために、2015年6月からクリエイティブディレクターが就任しています。2016年度も庁内の約140件の相談に対応。デザイン都市の推進、さまざまな事業の広報アドバイス、職員研修、入札やコンペの審査などの業務を行なっています。

中学校の授業で食品のパッケージをデザイン！

デザインの力で熊本復興を支援。

Designing food packaging in a middle school class!

美術の授業の中でデザインを教えている神戸市立本山中学校では本年度、地元企業（東洋ナッツ食品）の協力を得て、商品のパッケージデザインに取り組みました。3年生約250人が考えたアイデアの中からクラス代表作品を選び企業にプレゼン。選ばれた最優秀作品が、限定商品として販売されました。また、商品の売り上げの一部は熊本地震の義援金にあてられました。

科学技術高校のデザセン準優勝

神戸の明日を切り拓く高校生。

Kobe Municipal High School of Science and Technology wins 2nd Place in Dezasen

(National High School Design Competition)

「明日の社会を見つめ、明日の世界を創造する」をテーマに開催された第23回全国高等学校デザイン選手権大会（通称：デザセン）。参加1,015チームの中から、神戸市立科学技術高校3年生チームのアイデア「味来缶」が準優勝に選ばれました。「味来缶」は一人ひとりの思い出の味を缶詰にし、将来大切な思い出とともによみがえらせるプロジェクト。「未来へ紡ぐ味のタイムマシーン」というアイデアが評価されました。高校生自身が社会の中の問題を発見しデザインの力で解決する。そんな力を身につけています。

こどもSOZOプロジェクト―クリエイティブリユース―

ごみを宝物にする想像力と創造力。

The imagination and creativity to turn trash into treasure.

神戸のまちから出る廃材を利用して、素敵なモノたちを生み出す「クリエイティブリユース」。革の端切れ、木片、プラスチックなど、市内の店舗や工場を回り集めたさまざまな廃材を、子供たちがSOZO（創造と想像）力をフルに発揮して、自由な発想を形にしていきます。こどもの感性を磨く場であると同時に、廃材提供者である市内事業所や、市民サポーター、こどもとその家族など、様々な人が廃材の受渡しと利活用を通してつながる場として、ネットワークが育ちつつあります。

雑デザインの雑談会

第一線のクリエイターのここだけの話。

Intimate talks with leading creators.

「雑デザインの雑談会」は、毎回、さまざな分野で活躍中のクリエイターを神戸にお呼びして、デザインへのこだわり、いま気になるデザイン、自身のプロジェクトのエピソードなど、雑多なお話を伺うトークイベントです。聞き手は、神戸市のクリエイティブディレクター山阪佳彦氏。
クリエイティブの可能性について、また未来をつくるデザインについて、参加者同士が話し合い、交流を深める場にもなっています。

中小企業PR広告デザインコンペ

若手デザイナーの発掘。

Unearthing young designers.

中小企業の広報・デザイン力の向上、若いデザイナーの発掘・育成を目的にしたコンペです。
今回公募で選ばれた「神戸市管工事業協同組合」「株式会社フェイスクリエイツ」「株式会社AREZZO」の3社が実際に抱えている課題を題材に、柱巻広告のデザインを募集しました。さまざまなアイデアの応募作品から、審査会で各社1作品を選定。地下鉄三宮駅ホームの柱に約2ヵ月間掲出しました。

ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）

デザイン都市・神戸を推進中！

UNESCO CREATIVE CITIES NETWORK (UCCN)

ユネスコ創造都市ネットワーク（UNESCO Creative Cities Network = UCCN）は、世界中の“創造都市”の連携・相互交流を目的としたネットワークです。創造都市とは、文化産業を振興することで都市の活性化を目指しているまちのこと。「文学」「映画」「音楽」「クラフト＆フォークアート」「デザイン」「メディアアート」「食文化」の7つの分野ごとに、ユネスコ（国連教育科学文化機関）が認定しています。神戸市は、2008年10月16日、「デザイン」分野で加盟認定されました。このネットワークを活かし「デザイン都市・神戸」の魅力を国内外に発信しています。現在、116の都市が認定されており、うちデザイン都市は22都市です。（2017年3月時点）

創造都市国際交流事業への参加

日本の「創造都市」が協力して都市文化を紹介。

Participation in the Creative Cities Network Project

2016年10月に、日本のユネスコ創造都市と創造都市加盟を目指す国内都市が、パリにあるユネスコ本部で共同開催した、「日本へのクリエイティブな旅」展覧会に「デザイン都市・神戸」として参加しました。神戸、札幌、鶴岡、金沢、浜松の6都市が、文化資産や文化産業、都市生活、文化芸術活動等を紹介し、各国からの参加者に向けて、都市創造都市の魅力を発信しました。

こどもデザインワークショップ（サンテティエンヌ市交流事業）

異文化に触れながらこどもの創造性を高める。

Design Workshop for children (Saint-Étienne Cultural Exchange Program)

神戸市と同じユネスコ・デザイン都市であるサンテティエンヌ市（フランス）との共同事業として、お互いの都市のクリエイターを派遣し合い、それぞれの都市の文化に触れながら創造性を高めるこども向けワークショップを行いました。第2回目となる平成28年度はサンテティエンヌ市に神戸市のデザイナー1名を派遣し、現地のこどもたちを対象に日本の文化に触れてもらうプログラムを実施。こどもたちは、屏風や畳作り、茶道などの日本の文化を通じて、おもてなしの空間をデザインしました。

創造都市ネットワーク日本（CCNJ）

創造都市・農村間の連携と交流。

CREATIVE CITIES NETWORK JAPAN (CCNJ)

創造都市ネットワーク日本（CCNJ）は、国内外の創造都市・農村間の連携・交流を促進するためのプラットフォームです。それぞれの地域特性や多様性が、全国的なこのネットワークを通して結びつき、相互に発展することを目指しています。また、長引く不況と大災害に直面した日本社会が、地域から創造的に発展・再生するための新たな活力になること、さらには、アジアにおいて平和で共生的な創造都市ネットワークを構築する礎となることも期待されています。現在、87自治体、34団体が加盟（2017年3月時点）。神戸市は設立時より、幹事都市としてリーダーシップを発揮しています。

デザイン都市のデザイナー

「デザイン都市・神戸」をデザインしている人たちに聞く

神戸市のクリエイティブディレクター・山阪佳彦（やまさかよしひこ）が、神戸市内のさまざまなデザインについて、その道に造詣の深いプロフェッショナルや神戸市職員の話を聞いて歩きます。

2016年4月よりフリーマガジン「Kiss PRESS」ではじまった、この「デザイン都市・神戸」シリーズの中からCITY OF DESIGN 2016用に、いくつかのインタビューを抜粋（一部加筆）しました。

市バスのデザイン（2016年5月号掲載）

安全への配慮と神戸らしさを乗せ 街・人に馴染む緑

市民誰もが日常的に目にする「神戸市バス」のデザイン。すっかりおなじみの緑と白の車体ですが、その緑の色合いには2種類が存在しています。内装のシートにも神戸らしい一工夫が施されている車内、デザインへのこだわりについて車両課のメンバーに聞いてみました。

山阪：まずは市バスのデザインやカラーの現状について教えてください。

車両課： 車体のフロントとリアには市章のモチーフ、側面は楠公さん（大楠公）の菊水からヒントを得た曲線のパターン、キーカラーは六甲山をイメージしたグリーンを採用しています。これらのデザインは、すべてボンネットバスの時代からのもの。長年使用してきましたが、ワンステップバスは濃い目のグリーン、ノンステップバスは明るい黄緑色で区別しています。お客様が一目で分るように、また人にやさしいバスの存在を市民にＰＲするためでもあります。

山阪：長く同じモチーフを続けているおかげで一目で神戸市バスとわかりますね。

車両課： そうですね。ただ、ノンステップバスが増えてきたことで前のグリーンに親しみがある方々からは「以前の濃い緑の方が神戸感があった」といった意見も頂きます。

山阪：内装、仕様などのデザインにも何か神戸ならではの視点がありますか？

車両課： 以前は都市ごとに特色を出せたのですが、国のバリアフリー法によって、現在はどのまちのバスも同じ配色の内装になっています。それでもどこかに神戸らしさを出そうと、シート生地にポートタワーや六甲山、異人館などのイラストを織り込んでいます。また、つり革には2本のベルトを使った安定感のあるV字型を採用、揺れた際にもとっさに掴まれるよう「にぎり棒」の数も多めに設置しています。乗降の際に音声で「扉が閉まります」と警告チャイムが鳴るシステムを採用し、人にやさしい車両づくりを心掛けています。変わったところでは、一部の地域で町おこしの一環としてデザインバスも走らせています。葺合の数々の民話のキャラクターをあしらった「民話バス」はその一例。地域住民の足となっています。

山阪：現在市バスで行っている、新しい試みなどはありますか？

車両課： 日曜と祝日の夜、市内を走る全517台のうちたった1台にのみ星型の電飾を付けた「スターライトバス」というのが走行しています。乗車できた方には記念ステッカーもお渡ししています。どこを走るかもわからないため、見つけたらラッキーだと思っていただきたいですね。

山阪：市民の足として毎日19万人に利用されている市バス。今回はそのバスの車両担当の方にお話を伺いました。親しみやすい見た目はもちろんですが、バリアフリーや使いやすさへの配慮がいっぱいの神戸市バス。次回バスに乗ったときに、ぜひあちこちチェックしてみて下さい。意外な発見があると思いますよ。

神戸のシンボルが描かれたシートと各座席に設けられたにぎり棒

現存するボンネットバス

神戸市バス車両課の野口さん、山田さん、松原さんと山阪氏

道木所長のおすすめスポット 鯉川筋から見る「錨山」

現在は太陽光のみを使用しているが、昭和56年当時、自然エネルギーでの電力供給を支えた風力発電機も現存する。現在よく見られるプロペラ型とは違い、少ない風でも発電可能なダリウス型装置。

神戸市森林整備事務所 副所長の藤本さん、山阪氏
所長の道木さん

市章山・錨山のデザイン（2016年6月号掲載）

自然の力を蓄え 毎夜光り続ける神戸のシンボル

神戸市街地の背後を彩る山の電飾「市章山」「錨山」。神戸の夜景の中でもシンボル的存在の電飾は阪神淡路大震災当時も点灯し続け、市民から「復興への希望の光」と呼ばれました。
管理を担当される神戸市森林整備事務所の道木さんにお話を伺います。

山阪：まずは電飾を始められた経緯についてお聞かせいただけますか？

道木： 最初は錨山からだったんですが、これは明治36年に明治天皇が神戸港を見に来られる「観艦式」に合わせて作られました。当時は電飾ではなく、錨の形に松の木を植えたそうなんですが、前段階では子ども達が旗を持って並んだとも伝わっています。市章山に関しては明治40年に神戸港の着工記念で同じように松の木を植える形で始まりました。この後、現在は残っていませんが菊水を象った菊水山というのも一時期はあったようです。やがて、松の木から電飾になったのが昭和8年。これは「第1回神戸みなとの祭」の前後1週間のみ点灯する形で、市章山から始まりました。昭和42年には開港100年を記念し毎日電飾を開始。昭和56年のポートピア博覧会時に、太陽光と風力発電による自然エネルギーでの点灯に移行しました。

山阪：自然エネルギーを利用した電飾としてはかなり早いですね。

道木： ポートピア博覧会の一環としてやっておりましたので、当時の神戸市内でも先進的な特殊な取り組みの一つだったのではないかと思います。自然エネルギーを利用しているおかげで、阪神淡路大震災の当日の夜にも点いていました。それが意図したわけではありませんが、結果として希望の光に見えたという話も伺いますね。

山阪：たまに違った色を見かけますが、あれはどういう時に変更しているんですか？

道木： 錨マークの方だけですがブルーになっていることがあるかと思います。当初はオリックスブルーウェーブさんとの話の中で「オリックスが勝った時に青にしようか」ということから始まりました。現在はヴィッセル神戸さんが勝った日、国民の祝日、神戸まつりの日に色変更を行っています。

山阪：街の様々な場所から見える電飾ですが、おすすめのスポットはありますか？

道木： 錨山は鯉川筋から見上げるのが好きですね。あとはちょっと距離を置いて、ポートアイランドの方から見ますと「北前船」も含めて電飾全体が見れるのでおすすめです。点灯時間は日没～23時までなので、その時間は神戸のシンボルを見上げてもらいたいですね。

山阪：今や神戸の風景に欠かせない市章山や錨山ですが、想像以上に長い歴史があったことに驚きました。松の木～電球～LEDという変遷のエピソードも面白い話でしたね。今回見学させて頂いた照明施設周辺は、歩くのも大変なほど急斜面ですが、ほんとうに素晴らしい眺めですので、ハイキングにぜひ。

マンホールのデザイン（2016年7月号掲載）

地面から個性発信 鉄の蓋に描かれた神戸の街風景

道路で日常的に目にするマンホール、その蓋に施されたデザインに焦点を当てます。
各地に様々なデザインが存在し、最近では「蓋女（ふたじょ）」と呼ばれる女性ファンも増えているというデザインマンホール。建設局下水道部の木下さん、岩出さんを訪ねました。

山阪：マンホールに装飾を施した「デザイン蓋」はいつごろから使われだしたんですか？
木下： 下水道事業に興味を持ってもらうことを目的として、全国的には昭和56年頃から使われ始めました。神戸市としては昭和63年の「有馬温泉デザイン」が最初です。その後、「アーバンリゾートフェア’93」でも市民によるマンホールの人気投票が行われ、神戸市中央区の街並みが描かれたデザインが登場しました。
厳密にはデザイン蓋とは異なるのですが、既存のマンホール蓋にプレートを貼りつけた「マンホールインフォメーション」というものも神戸市各地にあります。こちらは細かい図形の表現ができるんですが、定期的なメンテナンスが必要なため設置している場所は限られています。
山阪：市役所近くでよく見る神戸の市街地が描かれたデザイン蓋もありますよね？
木下： フラワーロード沿い、中央区の市街地に設置されている「Welcome to KOBE」デザインですね。こちらは平成24年の下水道展のため、国際展示場前に作ったマンホールインフォメーションの現在のデザインを、簡略化して金型で作成したものです。元々は市の職員のデザインなんですよ。
山阪：現在、市内にデザイン蓋は何種類くらい設置されているのですか？
木下： およそ10種類存在しています。岡本商店街では石畳に合わせて格子状になったデザインを採用していますし、センターサウス通りは独自のデザインです。市の事業としてやっていこうというものもありますが、各商店街などが自らマンホールの業者に相談して作ったものなどもあり、作成の経緯は様々です。
山阪：デザイン蓋を使った取り組みもどんどんPRしていきたいですね。
岩出： そうですね。今、下水道部の若手職員を中心に、デザイン蓋を印刷したコルク製のマンホールコースターを作り、三宮・元町地区のカフェに配るプロジェクトを実施しています。カフェを利用する若者にも下水道に興味を持って頂き、SNSで拡散してもらえたら…と思って日々頑張っています。

山阪：まちを歩くたびに、気になっていたマンホール蓋。今回の取材では、かなりレアなデザインのモノも見ることができました。まちの個性を出したり、観光PRに活用したり、工夫もいろいろ。市内に約23万個もあるそうなので、デザインや活用法について、もっと検討してみてもいいかも知れませんね。

現在、神戸市内でよく見られる
市章入りのマンホール蓋

神戸市内最初のデザイン蓋
有馬温泉のデザインマンホール
※特別に色付けされたもの

観光客を意識した『Welcome to KOBE!』のデザインマンホール蓋

マンホールコースター配布協力店の1つ
トアロード沿いの「お気軽健康Cafe あげは。」

神戸市 建設局 下水道部の木下さん、山阪氏、岩出さん

海上花火ならではの演出で、滝のように海面まで垂れ落ちる花火

手打ちの作業ではひとつひとつ丁寧に火薬を詰めていく

山阪氏、岸火工品製造所の岸 洋介さん、岸 良治さん

花火のデザイン（2016年8月号掲載）

水面から空に昇る火と光の芸術品 海上花火の魅力

「みなと神戸海上花火大会」を担当する花火師、岸火工品製造所の6代目・良治さん、7代目・洋介さんにインタビュー。
神戸の花火大会ならではのこだわりやデザイン、コンセプト…。職人によって生み出される花火の美しさの秘密を垣間見ることができました。

山阪：岸火工品製造所さんでは長年に渡り、花火を作られていますよね。作り始めた頃から製法等は変わっているのですか？
岸： うちは130年くらいの歴史があって、古くは明治の頃から記録が残っています。その頃からずっと花火をやっていますね。製法はやはり、どんどん新しくなっています。40年位前に花火の事故が多発した時期があり、その頃に日本花火協会が中心となって、危険性の高い薬品を廃止して代用薬品に移行したり、配合や技術の共有を行ったんです。それまではそれぞれの業者で技術や情報量に偏りがあったのですが、危険性などの共通認識をもつことで事故が減りました。9割方の作業は未だに手作業なんですが、徐々に機械化も進められてきています。また、手打ちという作業は5年を越えた職人でないと行ってはいけないという安全規定も生まれました。
山阪：神戸の花火大会ならではのアイデアや工夫などはありますか？
岸： 陸上ではなく海上なので船を浮かべて打ち上げるんですが、陸上では禁止されている“斜めからの打ち上げ”が行えるんです。これは大きなメリットで、海上全体を埋め尽くす演出ができます。また、海上は燃える心配がないため、星を大きく作ったり燃焼が遅いものを入れて花火をあえて火が付いたまま、海上に落とすということもできます。昨年は赤の輪花火でポートタワーの花火を打ち上げましたが、今年は開港150周年に向けたプレイベントとして「I LOVE WATERFRONT」「I LOVE JAZZ」といった形で、海外の方に「神戸の良さ」を発信することをテーマにしています。ジャズに関しては「音楽を流せない神戸の花火大会の中でどう表現するか」、腕の見せ所になりますね。
山阪：花火業界でもトレンドの花火とか、流行の形とかはあるんですか？
岸： ありますね。今は「マジックボタン」という、人間が見えないレベルまで光を抑えることで、光がズレて動いているように見える花火がトレンドです。他にも「立体ハート花火」という、点状ではなく立体的にハートを象った花火も新しく作っています。今回、神戸の花火大会でも打ち上げる予定ですよ。

山阪：お話を伺う前はどこの花火もそれほど変わらないだろうと思っていたのですが、海上の花火大会ならではの打ち上げ方や神戸オリジナルの仕様があることに正直驚きました。
音楽などの演出に頼らない分、花火大会本来の魅力が味わえる要素が満載ですね。

給食のデザイン（2016年11月号掲載）

工夫を凝らした献立とシステム 食育を担う給食

学校給食をテーマにその歴史や献立作りへのこだわり、管理方法について伺いました。
現在、神戸市内の小学校と特別支援学校の170校において、8万4千食の給食が提供されています。「子どもの食育」としても重要な給食には様々な工夫が凝らされていました。

山阪：まずは神戸での給食の歴史について教えていただけますか？

健康教育課： 元々は貧困児童を対象に明治22年、山形県で始まりました。神戸で始まったのは戦後で、栄養が足りない子どもたちへの脱脂粉乳や味噌汁などの「補食給食」という形でした。やがてパンとシチュー、脱脂粉乳といった「完全給食」が始まったのは昭和25年頃になります。現在では小学校と特別支援学校で170校、8万4千食が提供されています。

山阪：献立はどのように決めるのですか？

健康教育課： 神戸市内の栄養教諭の献立担当の8名に教育委員会が加わり原案を立てます。食材の調達のためにも4カ月前には原案を立て、学校関係者や保護者、調理士、スポーツ教育協会で構成する「献立作成委員会」で2か月前には献立が決定します。「学校給食運営委員会」で発注などの最終決定をし、ようやく献立が決まります。

山阪：献立を決める上で工夫している点などはありますか？

健康教育課： 8万4千食にもなると、市内全域が同じ日に同じ献立では食材が集まらないので、5つのブロックに分けて日ごとに献立を変えています。1ヶ月内では皆が同じものを食べている割り振りになりますね。月曜日分は金曜日に食材が届くため、傷まない食材を使用するなど曜日を考慮することも必要です。地元の食材を使うことも大切で、神戸ワイン城で獲れたぶどうを使った「神戸ぶどうゼリー」や規格外の神戸のたまねぎを使った「神戸たまねぎミンチカツ」など独自の加工品の開発も行っています。また、給食でよく使うたまねぎ、じゃがいも、にんじんに関しては給食用に神戸市内の専用の畑で栽培していただいています。100%とは言えませんが、神戸で収穫できる季節にはそこで獲れたものを使います。給食は歴史が長い分、よく考えられたシステムにはなっていると思いますね。

神戸ワイン城で獲れたぶどうを使った「神戸ぶどうゼリー」

山阪：新しい取り組みや献立の変化があれば教えてください。

健康教育課： 噛むことの大切さを伝えるため、固い食品を取り入れた「カミカミ献立」を実施しています。また、家庭で季節感のある料理や郷土料理に馴染みのない子どもも多く、春なら「若竹煮」などの旬のおかずや「たこめし」などの地元郷土料理も献立に盛り込む試みも行っています。給食の内容の更なる充実に向けて今後も検討を続けていきます。

山阪：栄養バランスだけじゃなくて、地産地消の大切さや郷土料理のこと、野菜の旬、歳時、ときには海外の話題など、さまざまなことが学べる学校給食は、まさに「食べる教材」。これをずっと続けている献立担当の方の緻密なデザイン力には、完全に脱帽ですね。

昭和30年代の給食例 パン、ミルク（脱脂粉乳）、カレーシチュー

現在神戸市での郷土料理の給食例 たこめし、はたはたのからあげ、バチじる、牛乳

固い食品を取り入れた「カミカミ献立」

山阪氏、神戸市教育委員会事務局 指導部健康教育課の吉岡さん、中西さん、西岡さん

2016年デザインCG画©Kobe Luminarie O.C.

天井と壁が特徴的なダニエルさんデザインのルミナリエ。密度が高く立体的に美しい、見応えある光を楽しめる。

神戸ルミナリエ組織委員会のダニエル・モンテベルデさんと山阪氏

ルミナリエのデザイン（2016年12月号掲載）

感覚を重視した光の配色と間隔 神戸ルミナリエ

阪神・淡路大震災のあった1995年以降、鎮魂の意味をこめて毎年12月に開催されている『神戸ルミナリエ』。今年、デザインを始めプロデュースや会場演出の音楽などを担当したのは、クリエイティブディレクター ダニエル・モンテベルデさんです。詳しくお話を聞いてみました。

山阪：神戸ルミナリエはどのようにデザインされ、作られていくのですか？

ダニエル： ルミナリエのデザインは、すべてパソコン上で行なっています。事前に実物でテストできないため、レイアウトや細かな配色はほぼインスピレーションによるものですが、勘や感覚は、人によって違うものです。ルミナリエを見た人達は皆「凄い！」と言ってくれますが、それは感覚的なもので、きっとどこが凄いのかは説明できないでしょう。良い建築家は、設計に「感覚的な要素」をうまく取り入れますが、ルミナリエのデザインでも、私はそういう部分をとても大切にしています。デザインが決まると、それに合ったパーツを選び、イタリアからコンテナで輸送します。組み立ては、専門技術をもったイタリア人8～10人が10日間で作業します。電球の配線は倉庫でパーツごとに実施。電球切れや漏電など 様々なテストを行います。

山阪：ダニエルさんが考える、神戸ルミナリエの役割はどんなものでしょうか。

ダニエル： 去年、私は来場者と一緒にルミナリエを観て歩きました。その中でたくさんの会話を聞いて「人は様々な気持ちでルミナリエを観に来ている」と感じました。例えば震災で家族や友人を亡くした方もいれば、震災当時は生まれておらず意味を理解していない子どももいます。私の希望は「来場者が何か素敵なインスピレーションを受け取り、そしてその気持ちを持ち帰る」ことです。それは平和であったり、愛であったり、幸せであったり、そういうものを感じる機会の一つになって欲しい。神戸ルミナリエは今年22回目を迎えますが、神戸の人々が作った歴史でもあります。地震という悲劇でさえも希望の力で生き抜いた、それは素晴らしい力です。2011年のテーマが「希望の光」でしたが、私はいつのテーマにも「希望の光」を持たせていきたいと思っています。

山阪：2016年のテーマは「光の叙情詩」ですが、どういったものになりそうですか？

ダニエル： 今年のルミナリエは去年のものより更に美しくなっています。今年は紫色を使用し、色彩のバランスにも変化が見られます。バロック様式のエレメンツを多用した新しいデザインです。そして今年は東遊園地の南側が特別。光と音を立体的に楽しめる、まるで映画館のスクリーンのようなイメージになっています。

山阪：温かみのある白熱球から省エネを優先させたLEDへという時代の流れの中で、新たなデザインや演出を加えることで、今までで最高の出来映えと言い切ったダニエルさん。今年のルミナリエは楽しみです！

消防艇のデザイン（2017年1月号掲載）

新消防艇、就航 海上から神戸を守る水上消防署

阪神・淡路大震災で発生した長田区の火災でも活躍、海上から神戸の安全を守り続けている水上消防署を訪れました。2017年3月、神戸港開港150年記念として新消防艇「たかとり」が就航します。消防士の方々に消防艇の歴史や機能・設備についてお話を伺いました。

山阪：まずは神戸に消防艇が誕生した歴史と主な活動について教えてもらえますか？

消防局： 消防が警察の傘下にあった時代、海難救助所という組織があり、1936年に最初の消防艇・初代「たちばな」が作られました。当時は消防ポンプが付いておらず、海難救助が主でした。放水機能が付いたのは1942年に作られた「くすのき」からで、それから2艇体制です。当時は船といえば木造船で非常に燃えやすく、また艀（はしけ）にも人が住んでおり、そういった場所から海に転落する事例の救難にも多く使われていました。現在、出動は年間60～70件、ほぼ8・9割が水難救助で火災というのは非常に少ないです。海上火災以外に沿岸での火災時に出動することもあります。阪神・淡路大震災の時には長田港に接岸して、使えなくなった消火栓に代わって送水ポンプとして機能しました。

山阪：水上消防の皆さんは消防士の資格の他に必要な免許があるのですか？

消防局： 艇を運航する上で必要な海技士免状という資格を持っています。消防艇は基本6人の隊員、そこに水難救助であれば潜水士が4人、現場で保安調整をするための指揮隊員2名が乗り込みトータル12名程で出動します。その中の全員ではないんですが、最低3人は資格を持った隊員が乗っています。

山阪：神戸の消防艇ならではの特徴・地形が及ぼす影響などはありますか？

消防局： 他の自治体とちがい、神戸の消防艇は「いかにも船」というデザインです。それは海上を速く走れる、つまり救難スピードを重視した結果です。船は気象海象というものに影響を受けやすいので、春一番など南風が吹く際には海のうねりが発生するのですが、神戸は人工島が2つあることで壁となり、少しは波が穏やかかなと思います。

山阪：新しく就航する消防艇の特徴を教えてください。

消防局： 消防艇は全てオーダーメイドです。放水量を得るための重いポンプを乗せながら速力もある、その辺りを両立した艇になっています。放水時にも艇が水の勢いに耐え安定するようエンジンをポンプ用と動力用に分けて設けました。高さ10メートルの放水塔をもつ新艇は高所放水が可能で、岸壁に立つ倉庫などの火災にも対応しています。

山阪：阪神・淡路大震災で活動した最後の消防装備「たちばな」が勇退し、新消防艇「たかとり」が就航しました。船名は市民による投票により決定。その名は、古くから神戸の海上からの目印として、また漁民や航海者の安全を守る山とされてきた高取山に由来。その名の通り、海から港都を守ってくれています。

4代目「たちばな」の船内、中央のレバーで放水砲やポンプの操作を行う

新消防艇「たかとり」

神戸市消防局 施設課 消防士長 高増さん、山阪氏
神戸市水上消防署消防司令補 鈴木さん、消防司令 貝澤さん

「デザイン都市・神戸」のWEBサイトがリニューアルOPEN

https://design.city.kobe.lg.jp/

City of Design KOBE Homepage Renewal

「デザイン都市・神戸」の取り組みをさまざまな角度から紹介するWEBサイトが、2016年秋、リニューアルOPENしました。
デザインを使ったプロジェクト、デザインの可能性を学ぶワークショップ、展覧会や講演会など神戸市内で行われるさまざまなイベント、コンペの情報なども紹介。
「デザイン都市のデザイナー」では、本紙で紹介しきれなかった方へのインタビューも掲載しています。

神戸のラジオ局「Kiss FM KOBE」の番組内で12時から
「デザイン都市・神戸」にまつわる情報を発信しています（リポートコーナー）

SPARKLE FRIDAY（スパークル フライデー）

【ON AIR】毎週金曜 11:30～14:45
◇サウンドクルー：ターザン山下
◇リポーター：宇田満里子
http://www.kiss-fm.co.jp/sparkle_friday/

Kiss FM KOBE
KOBE 89.9 HIMEJI 77.6
ASHIYA 87.1 HIKAMI 78.3
KINOSAKI 87.9 KASUMI 78.4 AWAJI 79.9

神戸 89.9MHz／姫路 77.6MHz／芦屋 87.1MHz
香住 78.4MHz／氷上 78.3MHz／城崎 87.9MHz
淡路 79.9MHz

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

City of Design KOBE

Member of the UNESCO Creative Cities Network since 2008

神戸市はユネスコに認定されたデザイン都市です

BE KOBE

http:/bekobe.jp/

CITY OF DESIGN KOBE 2016　発行：神戸市企画調整局創造都市推進部／発行番号：神戸市広報印刷物登録 平成28年度第727号（広報印刷物企画A-6類）